



## 米国による最近の政策変更が世界の HIV 対策に与える影響

米大統領エイズ救済緊急計画 (PEPFAR)、および世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (グローバルファンド)、国連共同エイズ計画 (UNAIDS) への支援を通じ、米国政府は 20 年以上にわたって世界の HIV 対策におけるゆるぎないリーダーであり続けてきました。

世界の HIV 対策分野における米国の貢献の重要性はいくら強調してもし過ぎることはありません。2003 年の創設以来、PEPFAR は 55 カ国で極めて重要な HIV 予防、治療、ケア、支援のプログラムに投資し、2600 万人を超える人の命を救ってきました。

米国政府はつい最近、プログラムの効率性および米国の外交政策との整合性を評価するため、米国の対外援助を即時一時停止するという命令を出しました。この停止により、HIV 陽性者や HIV の影響を受けている何百万もの人々を対象にした PEPFAR のプログラムとサービスが継続困難になる影響が出ています。

UNAIDS は、パートナー機関や各国政府、コミュニティに呼びかけ、停止により重要な HIV サービスの継続にどのような影響があるのかを評価し、影響の緩和をはかることで、今回の事態に対応しています。このポータル (サイト) は 55 カ国が受けている影響と世界の HIV 対策に関する世界全体および各国別の最新情報や、データ、ガイダンス、その他のリソースを共有するため、リアルタイムで更新情報の提供を続けていくものです。

UNAIDS は、米国の対外援助一時停止期間中も HIV 陽性者や HIV の影響を受けているすべての人が、生死にかかわるサービスを受けられるよう努力を続けていきます。

UNAIDS は引き続き、人びとの命を救うために米国政府との協力関係を進めていく所存です。世界の HIV 対策における米国のリーダーシップが維持され、命を救うというユニーク、かつ極めて重要な影響力を保てるようにするため、私たちは力を尽くしていきます。

**重要な更新：米務省は免除実施に関する詳細を提供し、救命のための HIV 治療の緊急性から 90 日間の一時的停止期間中もサービスが継続/再開される可能性があることを確認しました。**

2025 年 2 月 1 日、PEPFAR を監督する米務省国際保健安全保障外交局 (GHSD) は、PEPFAR 実施機関および PEPFAR 国別コーディネーターに対し「米国の対外援助による救命 HIV サービス提供の一時的停止に対する限定的免除の実施」に関する覚書を発行しました。

覚書は、90 日間の一時的停止期間中、または新しいガイダンスに置き換えられるまで、以下の活動を再開できることを確認しています。

1. HIV ケアと治療の救命サービス。HIV 検査とカウンセリング、結核を含む日和見感染症の予防と治療、検査サービス。関連用品/医薬品の調達とサプライチェーンを含む。
2. 母子感染予防サービス。関連用品/検査キット、医薬品、妊婦および授乳中の女性のための PrEP を含む。
3. 支援の実施および監督のために厳密に必要な実施機関および実施パートナーの合理的な管理

コスト。国別データに関連する活動、臨床モニタリングとプログラム管理に使用される PEPFAR の中央データプラットフォームの一部を含む。

PEPFAR 実施機関は、免除対象とならない他のすべての活動に対する対外援助の一時停止を引き続き指示されている。

### タイムライン（経過）

2025 年 1 月 20 日、米国のすべての対外援助を即時 90 日間停止すると米務省が発表。米大統領エイズ救済緊急計画（PEPFAR）が支援する活動も対象に含まれていた。「プログラムの効率性および外交政策との整合性を評価するため、米国の対外開発援助を 90 日間停止する」と宣言した大統領令は新政権による最初の主要外交政策決定の 1 つだった。

2025 年 1 月 28 日、米務長官が「緊急人道的免除」を承認。米国が資金提供する救命 HIV 治療を引き続き受けることが可能に。この免除措置によって「命を救う人道的支援」の継続または再開が認められ、必須医薬品や包括的 HIV 治療を含む医療サービス、およびこれらのサービスに必要な物資と費用にも適用される。世界全体で治療を受けている 3070 万人の HIV 陽性者の 3 分の 2 に相当する 2000 万人以上が世界で有数の HIV 対策である PEPFAR の直接支援で治療を受けており、この人たちが生きていくために不可欠な措置となる。

2025 年 2 月 1 日、PEPFAR を監督する米務省国際保健安全保障外交局（GHSD）が、PEPFAR 実施機関および PEPFAR 国別コーディネーターに対し免除に関する覚書を発行。90 日間の一時停止期間中に継続/再開できるのは以下の活動のみであることを確認した。

1. HIV ケアと治療の救命サービス。HIV 検査とカウンセリング、結核を含む日和見感染症の予防と治療、検査サービス。関連用品/医薬品の調達とサプライチェーンを含む。
2. 母子感染予防サービス。関連用品/検査キット、医薬品、妊婦および授乳中の女性のための PrEP を含む。
3. 支援の実施および監督のために厳密に必要な実施機関および実施パートナーの合理的な管理コスト。

PEPFAR 実施機関は、免除対象とならない他のすべての活動に対する対外援助の一時停止を引き続き指示されている。

### PEPFAR が世界にもたらした実績

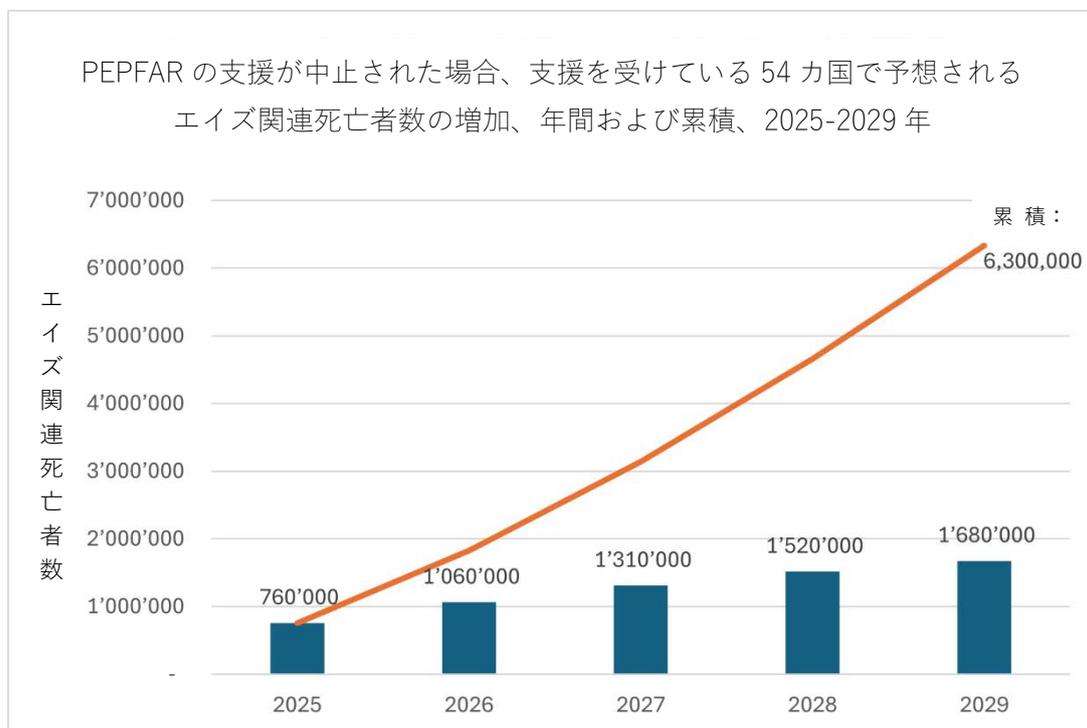
過去 20 年間にわたり、PEPFAR は世界の HIV 対策を牽引し、2600 万人以上の命を救い、約 500 万人の子どもの HIV 感染を防いできた。

2024 年 12 月現在、米国政府は、約 56 万人の子ども（0~14 歳）を含む 2000 万人以上に命を救う抗レトロウイルス治療を支援している。

PEPFAR によるプログラムは、アフリカを中心に 55 カ国で実施され、HIV 陽性者および HIV の影響を受けている何千万もの人に、命を救う重要なサービスを提供している。

HIV に関する米国の対外援助が突然停止されれば、命を救う HIV 治療薬の提供、およびそれらを頼りにしている何百万もの人への HIV 予防サービスに直ちに影響が及ぶことになる。

UNAIDS は、PEPFAR の中止が永久に続けば 2029 年までのエイズ関連死亡者数は 630 万人増加し、エイズによる孤児や弱い立場の子供たちは 340 万人、子供の HIV 感染者数は 35 万人、成人の感染者数は 870 万人増加すると推定している。公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結を 2030 年までに達成することは不可能となる。



日本語仮訳：公益財団法人エイズ予防財団